

選択的評価事項に係る評価

自 己 評 価 書

平成 2 3 年 6 月

阿南工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項A 研究活動の状況	3
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	20

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

阿南工業高等専門学校

(2) 所在地

徳島県阿南市見能林町青木265

(3) 学科等構成

学 科：機械工学科

電気電子工学科

制御情報工学科

建設システム工学科

専攻科：構造設計工学専攻

電気・制御システム工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成23年5月1日現在)

学生数：学 科 824名

専攻科 37名

教員数： 65名

学生数		単位：名				
準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	合計
機械工学科	43	42	45	47	42	219
電気電子工学科	40	40	43	48	39	210
制御情報工学科	40	40	46	52	35	213
建設システム工学科	41	37	33	38	33	182
計	164	159	167	185	149	824

専攻科課程	1年	2年	合計
構造設計工学専攻	11	5	16
電気・制御システム工学専攻	7	14	21
計	18	19	37

教員数		単位：名			
区分	教授	准教授	講師	助教	合計
一般教科	7	6	4	2	19
機械工学科	4	5	0	3	12
電気電子工学科	5	6	0	0	11
制御情報工学科	5	4	1	2	12
建設システム工学科	5	5	0	1	11
計	26	26	5	8	65

2 特徴

・沿革

阿南工業高等専門学校（以下、本校と言う。）は、昭和 38 年、機械工学科及び電気工学科の 2 学科により開校した。昭和 42 年には土木工学科を設置、いくつかの改組を経、現在は機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、建設システム工学科の 4 学科体制（以下、これら 4 学科を総称して準学士課程若しくは本科と言う。）により運営している。また、平成 8 年には専攻科（構造設計工学専攻及び電気・制御システム工学専攻）を設置した。

平成 14 年、本科 4、5 年次及び専攻科 2 年間の 4 年間にわたる「創造技術システム工学」教育プログラムを策定した。そして、平成 16 年、日本技術者教育認定機構（JABEE）により、工学（融合複合・新領域）関連分野において、同教育プログラムが JABEE 認定基準に合致していると認められた。

・理念及び目的の背景

本校の教育理念・目標に則り、高度化多角化が加速的に進む情報技術について、実践的な技術力及び開発応用能力、豊かな創造力を有して社会の持続的な発展に貢献できる高等専門技術者には、「複合的な技術開発」を進められる能力及び「ものづくり」ができる能力が重要である。

このことから、これら能力の養成を本校の学習・教育目標の最重点項目としている。同目標を具現化するため、本校カリキュラムは、①「ものづくり」に不可欠な人間性の涵養を重視していること、及び②「ものづくり」に必要な創造性を養うために実験実習を重視していること、を特徴とする。

①の達成のため、本科低学年次から人間性の涵養を重視しつつ、十分な基礎学力と、継続的に専門技術を学習する習慣を獲得させている。

②の実現のため、本科 5 年間では、各専門領域において「ものづくり」の基盤となる知識や技術に関する一貫した教育カリキュラムを構成している。専攻科では、各専門領域において、本科の基盤技術を活かした実践的な「ものづくり」を重視しつつ、「複合的な技術開発」を進められるカリキュラムを構成している。

Ⅱ 目的

阿南工業高等専門学校の使命

1 教育理念

本校の教育理念は、校訓「真理・創造・礼節」を核とする。すなわち、本校教育においては、「学生は、将来、有為な技術者として崇高な矜持と旺盛な責任感を持ち、国家社会のために貢献しうる人物となるため、①真理を愛し、科学的叡智の円満な発達を心掛ける、②学業に専念するとともに規律を重んじ、礼儀を厳正にする、③勤労に親しみ、強固な意志と頑健な身体を鍛錬する」こと達成することを目指している。

この理念を実現するため、①「ものづくり」に不可欠な人間性の涵養を重視すること（校訓の「礼節」に該当する）、及び②「ものづくり」に必要な創造性を養うために実験実習を重視すること（校訓の「真理・創造」に該当する）を特徴とするもったカリキュラム構成している。同カリキュラムの実施を通し、本校では「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」の育成を目指している。

2 教育活動等の基本的な方針、教育目標等

教育理念を実現するための教育目標は、次の通りである。

- (A) 国際人としての教養を身に付け、人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を持つ技術者を養成する。
- (B) 社会が要求している問題を見出し、数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。
- (C) 日本語で論理的に記述・討論ができ、専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ、表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。
- (D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣を身に付け、複合的な技術開発を進められる能力を持った技術者を養成する。
- (E) 「ものづくり」を重視し、技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を養成する。

これらの教育目標を踏まえ、準学士課程・専攻科課程ごとの教育目的を、次のように定めている。

〈準学士課程〉

- ・ 機械工学科は、機械の力学、加工、材料及び制御に関する機械工学の知識と技術を教授し、機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。
- ・ 電気電子工学科は、電気エネルギーから電子情報通信に及ぶ電気電子工学の知識と技術を教授し、電気・電子回路の設計・製作・解析で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。
- ・ 制御情報工学科は、コンピュータを利用して制御を行うための計測・制御・情報工学の知識と技術を教授し、制御システムの調査・分析・設計で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。
- ・ 建設システム工学科は、環境や情報の分野を融合した建設工学の知識と技術を教授し、構造物の建設や環境保全で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

〈専攻科課程〉

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授研究し、創造力豊かな技術能力を育成することを目的とする。

Ⅲ 選択的評価事項 A 研究活動の状況

1 選択的評価事項 A「研究活動の状況」に係る目的

阿南高専の特長と地域の特性を生かし、地域の活性化、産業の振興に寄与するという研究活動の目的を達成するため、技術開発研究と教育研究の総合的推進の観点から以下の 3 点について実施する。

- (1) 教科研究の成果を授業の活性化、高度化に接続する。
- (2) 国、県、市と連携し、獲得した外部資金を活用することにより、地元産業の活性化と新規事業開拓につながる地域のニーズに応える研究活動を行う。
- (3) 研究活動に学生を参加させ、学生の研究開発能力と発表能力を養う。

2 選択的評価事項A「研究活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点到係る状況)

(a) 研究に携わる教員等の配置状況

教員は一般教科、機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、建設システム工学科のいずれかに所属し、主として教育に携わるが、30～40%の時間を専門分野の研究に費やしている。専攻科教育は上記学科教員が兼任している。各教員の主な研究テーマ一覧は本校Webサイトで公開している(資料A-1-①-1)。また詳細な研究テーマは地域連携・テクノセンター広報に掲載されている。なお、民間企業からの寄附により設置している寄附講座に所属している教員は、主に研究に携わっている。

(b) 研究支援体制等

本校には地域連携・テクノセンターが設置されており、同センターのもとに4つの部門があり、地域との共同研究・学内共同研究等の実施、外部資金の獲得、公開講座の実施、技術相談などを行っている(資料A-1-①-2)。主に、総務課企画係が地域連携・テクノセンターの事務を取り扱い、円滑に機能している。共同研究等を契約した教員には研究資金を追加配分するインセンティブを与えている。また地域連携・テクノセンターと連携して12名の技術職員が一丸となって教員の研究を技術的に支援している。

外部支援組織としては阿南高専助成会(ACTFellowship)があり、定期的に講演会等を開催することにより、共同研究の芽を見いだしている(資料A-1-①-3)。さらに、阿南市との連携協力協定により、毎年数件の連携研究を実施し、研究成果が上がっている(資料A-1-①-4)。国、県、阿南商工会議所とも密接に連携し、国、県の研究開発施策に積極的に対応する体制ができている。

(c) 研究実施体制の整備

1) 研究実施体制の改善に向けた具体的取り組み

①創造テクノセンター棟研究室の優先使用

創造テクノセンター棟研究室は、外部資金を導入して研究する教員に優先使用させるようにしている。具体的には平成22年度は3月現在で受託研究(阿南市との連携研究)2件、科学研究費補助金研究2件、共同研究5件が実施されている(資料A-1-①-5)。ただし、毎年連続して外部資金を獲得することは地域企業の事情で難しく、断続的になるか、あるいは別のテーマで外部資金を獲得するなど苦心している。

②技術職員による支援

研究に技術職員の支援は欠かせない。本校では従来各科に配置されていた技術職員を創造テクノセンター1階のセンター管理室に統合し、技術部を設置することにより、教員の研究支援が有機的かつ即応性に富むものになっている。この結果、技術職員自身もお互いに切磋琢磨して、また教員と共同研究をするなどして技術レベルの向上に励んでおり、研究支援により結果を与えている。

③教員間の共同研究、教員と地域の共同研究の整備

創造テクノセンターの研究室は学内共同研究にも優先権を与えている(前述資料A-1

①-5)。具体的には類似研究者の研究として、寄附講座の研究が挙げられる。教員と地域の共同研究は地域連携・テクノセンターの地域連携部門、知的財産・研究支援部門が中心となって県内企業の情報を得て共同研究等の斡旋をしている。

2) 知的財産権を確保・保持するための具体的方策

地域連携・テクノセンターの知的財産・研究支援部門が知的財産の管理と活用に関する事項を実施している。平成 21 年度は、弁理士が全教員・技術職員と個別特許相談を行った。平成 22 年度は、教員・学生への知財セミナー（資料A-1-①-6）を行い、知的財産の成果としては、高専機構の承継 4 件、特許出願 2 件、審査請求 2 件であった。

資料A-1-①-1



阿南高専研究者総覧

下記の教員名をクリックすると、阿南高専の研究者情報を見ることができます。
また、四国6高専の研究者情報を四国6高専研究者検索システムで検索できます。

一般教科	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科	寄附講座
宮本 陽生	西岡 守	当宮 辰美	宮城 勢治	天羽 和夫	塚本 史郎
坪井 泰士	多田 博夫	正木 和夫	森住 昇	島田 富美男	小西 智也
林田 栄治	西野 精一	中野 好典	岩佐 健司	湯城 豊勝	
錦織 浩文	吉田 岳人	中村 厚信	田中 達治	堀井 克章	
勝藤 和子	武知 英夫	砂原 米彦	杉野 隆三郎	笹田 修司	
藤居 岳人	奥本 良博	中村 雄一	福田 耕治	松保 重之	
川崎 敏和	原野 智哉	松本 高志	福見 淳二	吉村 洋	
一森 勇人	太北 裕司	長谷川 竜生	岡本 浩行	森山 卓郎	
榎田 雅弘	川畑 成之	小松 実	安野 恵寒子	加藤 研二	
今田 浩之	西本 浩司	釜野 勝	伊丹 伸	太田 直友	
田上 隆徳	松浦 史法	上原 信知	一瀬 元喜	川上 周司	
谷中 俊裕	安田 武司		小林 美緒		
新井 修					
藤井 浩美					
田中 広志					
山田 耕太郎					
松尾 俊寛					
中島 一					
平山 基					

(出典 阿南高専 Web サイト 阿南高専研究者総覧)

資料A－1－①－2

阿南工業高等専門学校地域連携・テクノセンター規則

(平成21年4月1日)

(規則第42号)

阿南工業高等専門学校地域連携・テクノセンター委員会規則

(平成21年4月1日)

(規則第42号)

(設置)

第1条 阿南工業高等専門学校地域連携・テクノセンター規則第6条第2項の規定に基づき、阿南工業高等専門学校地域連携・テクノセンター委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) センターの管理運営及び広報に関する事項
- (2) 地域連携部門の業務に関する事項
- (3) 知的財産・研究支援部門の業務に関する事項
- (4) 教育研究部門の業務に関する事項
- (5) 環境研究部門の業務に関する事項
- (6) その他センターの管理運営全般に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 地域連携部門長
- (4) 知的財産・研究支援部門長
- (5) 教育研究部門長
- (6) 環境研究部門長
- (7) 総務課長
- (8) その他センター長が必要と認める者

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(審議結果)

第6条 委員長は、委員会の審議結果を、速やかに校長に報告するものとする。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部門会議)

第8条 部門長は、必要に応じて部門会議を開催することができる。

2 部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

以下省略

(出典 阿南高専 地域連携・テクノセンター規則)

資料A-1-①-3

ACTフェローシップ（阿南工業高等専門学校助成会）会則

(名称)

第1条 本会は、ACTフェローシップ（阿南工業高等専門学校助成会）と称する。

(目的)

第2条 本会は、阿南工業高等専門学校を拠点とした産学官連携により技術交流の促進と地域の活性化に寄与するとともに、阿南工業高等専門学校における教育研究の振興を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- ① 阿南工業高等専門学校の教育及び研究に対する助成事業
- ② 産学官の共同研究、技術研究開発等の促進に関すること
- ③ 科学技術振興のための講演会、研究会等の開催及び情報誌の発行
- ④ その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会員)

第4条 本会の会員は、次のものをもって組織する。

- ① 企業会員 この会の目的に賛同して入会し、本会の活動を推進する企業等の代表者
- ② 個人会員 この会の目的に賛同して入会し、本会の活動を推進する個人

2 本会への入会及び退会は、本会事務局に所定の書類により届け出るものとする。

(役員)

第5条 本会に、次の役員を置く。

- | | |
|-----|-----|
| 会 長 | 1名 |
| 副会長 | 2名 |
| 理 事 | 若干名 |
| 監 事 | 若干名 |

(出典 ACT フェローシップ（阿南工業高等専門学校助成会） 会則)

資料A-1-①-4

阿南市との連携研究

受入 年度	研究・寄附内容等	契約・歳入日	研 究 期 間 等	契 約 金 額 等		契約・寄附 業者名等	研究担当者名等
				契約金額等 (単位:円)	研究料 (単位:円)		
18	LED基板等開発	平成18年6月30日	平成18年6月30日 ～ 平成19年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
18	電子自治体構築についての研究	平成18年6月30日	平成18年6月30日 ～ 平成19年3月31日	1,750,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
18	大気汚染対策推進事業期間における結露低減機 への付加価値と付加価値を生み出す関係	平成18年6月30日	平成18年6月30日 ～ 平成19年3月31日	2,050,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
	計			5,000,000	0		
19	LED基板等開発	平成19年5月16日	平成19年5月16日 ～ 平成20年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
19	電子自治体構築についての研究	平成19年5月16日	平成19年5月16日 ～ 平成20年3月31日	1,750,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
19	大気汚染対策推進事業期間における結露低減機 への付加価値と付加価値を生み出す関係	平成19年5月16日	平成19年5月16日 ～ 平成20年3月31日	3,000,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
	計			5,950,000	0		
20	LED基板等開発	平成20年5月9日	平成20年5月9日 ～ 平成21年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
20	電子自治体構築についての研究	平成20年5月9日	平成20年5月9日 ～ 平成21年3月31日	1,750,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
20	大気汚染対策推進事業期間における結露低減機 への付加価値と付加価値を生み出す関係	平成20年5月9日	平成20年5月9日 ～ 平成21年3月31日	1,420,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
	計			4,370,000	0		
21	LED基板等開発	平成21年5月8日	平成21年5月8日 ～ 平成22年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
21	電子自治体構築についての研究	平成21年5月8日	平成21年5月8日 ～ 平成22年3月31日	1,800,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
21	大気汚染対策推進事業期間における結露低減機 への付加価値と付加価値を生み出す関係	平成21年5月8日	平成21年5月8日 ～ 平成22年3月31日	726,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
	計			3,726,000	0		
22	LED基板等開発	平成22年5月20日	平成22年5月20日 ～ 平成23年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川 竜生
22	電子自治体構築についての研究	平成22年5月20日	平成22年5月20日 ～ 平成23年3月31日	1,800,000	-----	阿南市	電気:中村 雄一
22	小・中学校及び生涯学習への講師派遣等	平成22年5月20日	平成22年5月20日 ～ 平成23年3月31日	100,000	-----	阿南市	制御:岩佐 健司
	計			3,100,000	0		
23	LED基板等開発	平成23年5月20日	平成23年5月20日 ～ 平成24年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川 竜生
23	電子自治体構築についての研究	平成23年5月20日	平成23年5月20日 ～ 平成24年3月31日	1,800,000	-----	阿南市	電気:中村 雄一
23	小・中学校及び生涯学習への講師派遣等	平成23年5月20日	平成23年5月20日 ～ 平成24年3月31日	100,000	-----	阿南市	制御:岩佐 健司
	計			3,100,000	0		

(出典 阿南市との連携研究一覧)

資料A-1-①-5

平成22年度 地域連携・テクノセンター利用状況

室名	平成22年度申請(目的)	研究代表者	研究区分	利用期間	備考
1 プロジェクト室A	LEDを用いたオブジェの製作と常設に耐えることのできるLED基板の開発	電気電子工学科・長谷川竜生	2.3	22.9.1 ～ 23.8.31	
2 プロジェクト室A	微小領域における光応答に関する研究	電気電子工学科・釜野 勝	1.2.3.4.5.6 (大学との共同研究)	22.9.1 ～ 23.8.31	
3 プロジェクト室B	寄附講座における教育・研究、LED技術者養成講座における教育	寄 附 講 座・小西哲也	2.3.4.5.6 (寄附講座研究)	22.9.1 ～ 23.8.31	
4 プロジェクト室C	ナノスペースファクトリー創製とそのメカニズムに関する研究	寄 附 講 座・塚本史郎	6 (寄附講座研究)	22.9.1 ～ 23.3.31	
5 プロジェクト室D	放電プラズマ焼結装置による接合技術の研究	機 械 工 学 科・奥本良博	3.4.5	22.9.1 ～ 23.8.31	
6 プロジェクト室D	LEDによる海ブドウの養殖に関する共同研究等	建設システム工学科・湯城豊勝	1.3.4	22.9.1 ～ 23.8.31	
7 プロジェクト室D	微細加工用アプレシブ・サスペンションジェット切断盤の開発	機 械 工 学 科・大北 裕司	4.5	22.9.1 ～ 23.8.31	
8 実験室1	水産庁受託研究「水産基盤整備委託事業」ダム砂及び深土を用いた造地整備技術の開発	建設システム工学科・大田直友	2	22.9.1 ～ 23.8.31	
9 実験室2	科学研究費補助金、地域連携、卒業研究、技術相談等	建設システム工学科・堀井克章	4.6(科研、地域連携)	22.9.1 ～ 23.8.31	
10 実験室3	H21年度JSTシーズ発掘試験、天田財団一般研究開発助成、藤崎電機(株)との共同研究、及び寄附講座との学内共同研究に關わる実験室として利用	機 械 工 学 科・吉田岳人	1.2.3.4	22.9.1 ～ 23.8.31	
11 実験室4	企業メリット創出型低炭素社会システム開発	建設システム工学科・加藤研二	6 (県・NPO等との協同事業・研究)	22.9.1 ～ 23.8.31	
12 実験室5	四国化工機(株)との共同研究の実施及びJST A-STEP研究成果長週展開支援事業F Sステージ探索タイプ受託研究実施のため	機 械 工 学 科・原野智哉	1.2	22.9.1 ～ 23.8.31	
※利用区分	1. 民間機関等との共同研究 2. 受託研究 3. 学内共同研究 4. 卒業研究 5. 特別研究 6. その他				

(出典 地域連携・テクノセンター利用状況資料)

資料A-1-①-6

平成22年度 知財関連セミナーの開催実績

【平成22年度】

○第1回知的財産権セミナー（地域連携・テクノセンター）

日 時 平成22年11月26日（金）16：10～17：00

場 所 創造テクノセンター棟マルチメディア室

講 師 徳島大学ソシオテクノサイエンス研究部
教授 出口 祥啓（でぐち よしひろ）氏

内 容 「産学官連携における工業所有権取得のポイントとその活用事例
ー研究者の立場からの取組についてー」

参加者 教職員 16名， 専攻科2年生 18名

○第2回知的財産権セミナー（(株)カネカテクノリサーチ）

日 時 平成22年12月24日（金）16：10～17：00

場 所 創造テクノセンター棟マルチメディア室

講 師 辻丸国際特許事務所 弁理士 辻丸 光一郎 氏

内 容 「大学発ベンチャー起業立ち上げの事例研究(陥りやすい落とし穴)
ー成功例と失敗例の比較、その分かれ目は？」

参加者 教職員 14名， 企業等 8名

【平成21年度】

○学生向けセミナー（発明協会）

日 時 平成21年10月1日（木）13：00～15：00

場 所 創造テクノセンター棟マルチメディア室

講 師 ユニアス国際特許事務所 顧問 板東 正男（ばんどう まさお）氏

内 容 「知的財産権制度活用成功事例と失敗事例」
おもしろい身近な事例を提示し、どのような知的財産が存在しているかを解説。

参加者 専攻科生及び本科5年生 33名

（分析結果とその根拠理由）

研究支援体制は整っており、実施体制もほぼ完成していることから、高等専門学校としての研究は十分できると考えられる。

観点A－1－②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

(a) 教員の研究活動成果

本校教員は多様な学会等に所属し、学会活動に参画している。以下の表に過去5年間の研究活動成果件数を示す(資料A－1－②－1)。平成22年度は論文27報，紀要7報，国際会議プロシーディング33報，国内学会口頭発表93件である。年度ごとのばらつきはあるが，発表件数は増加傾向にあり，相応の研究活動ができている。

(b) 地域との研究活動

過去2年間の外部資金の獲得状況は阿南工業高等専門学校要覧に示されている。それによると平成22年度は民間等との共同研究12件，受託研究12件，奨学寄付金は625万円である。共同研究の相手先は中小企業が多く，研究テーマの多くは地域に適したものとなっている。工業県でない地方都市にあってこの件数は健闘している。平成15年1月17日に締結した阿南市との連携協力に関する協定により，現在3件の研究が進められている(前述資料A－1－①－4)。平成22年度の外部資金獲得件数は9件であった。

(c) 教育改善に関わる研究活動実績

教育のウエイトが高い高専にとって，教育改善研究は重要な研究活動である。成果を還元して授業の個性化，活性化と高度化を図っている(資料A－1－②－2)。

(d) ものづくり教育・創造教育に関わる研究活動実績

ものづくり教育・創造教育も高専機構の目的に入っている重要な教育活動である。その改善研究は評価が高い。成果を還元して授業の個性化，活性化と高度化を図っている(資料A－1－②－3)。

(e) その他の実績

最近5年間の受賞実績としては，国立高等専門学校機構理事長奨励賞1件，国立高等専門学校機構教育教員研究集会理事長賞1件，国立高等専門学校教員顕彰優秀賞2件，学会論文賞等3件がある(資料A－1－②－4)。さらに研究活動や成果の新聞記事等は毎年多数有り，平成22年度の一部を示す(資料A－1－②－5)。

資料A-1-②-1

阿南高専における研究活動成果

オリジナル論文	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
国際誌	5	8	9	18	10
国内学協会誌	13	12	15	9	11
高専教育	10	12	12	14	6
紀要	12	7	2	1	2
解説・総説	2	2	2	0	0
著書	1	1	1	0	0
研究成果報告書	1	1	1	2	4
国際会議で発表	17	16	19	32	33
国内学協会で口頭発表	61	77	74	88	93

(出典 阿南高専における研究活動成果)

資料A-1-①-4 (再掲)

阿南市との連携研究

受入 年度	研究・寄附内容等	契約・歳入日	研 究 期 間 等	契 約 金 額 等		契約・寄附 業者名等	研究担当者名等
				契約金額等 (単位:円)	研究料 (単位:円)		
18	LED基板等開発	平成18年6月30日	平成18年6月30日 ～ 平成19年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
18	電子自治体構築についての研究	平成18年6月30日	平成18年6月30日 ～ 平成19年3月31日	1,750,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
18	大浜港千両埋立工事現場における総瀬危機種への対応検討と生涯学習モデルの策定	平成18年6月30日	平成18年6月30日 ～ 平成19年3月31日	2,050,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
計				5,000,000	0		
19	LED基板等開発	平成19年5月16日	平成19年5月16日 ～ 平成20年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
19	電子自治体構築についての研究	平成19年5月16日	平成19年5月16日 ～ 平成20年3月31日	1,750,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
19	大浜港千両埋立工事現場における総瀬危機種への対応検討と生涯学習モデルの策定	平成19年5月16日	平成19年5月16日 ～ 平成20年3月31日	3,000,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
計				5,950,000	0		
20	LED基板等開発	平成20年5月9日	平成20年5月9日 ～ 平成21年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
20	電子自治体構築についての研究	平成20年5月9日	平成20年5月9日 ～ 平成21年3月31日	1,750,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
20	大浜港千両埋立工事現場における総瀬危機種への対応検討と生涯学習モデルの策定	平成20年5月9日	平成20年5月9日 ～ 平成21年3月31日	1,420,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
計				4,370,000	0		
21	LED基板等開発	平成21年5月8日	平成21年5月8日 ～ 平成22年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
21	電子自治体構築についての研究	平成21年5月8日	平成21年5月8日 ～ 平成22年3月31日	1,800,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
21	大浜港千両埋立工事現場における総瀬危機種への対応検討と生涯学習モデルの策定	平成21年5月8日	平成21年5月8日 ～ 平成22年3月31日	726,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
計				3,726,000	0		
22	LED基板等開発	平成22年5月20日	平成22年5月20日 ～ 平成23年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川 竜生
22	電子自治体構築についての研究	平成22年5月20日	平成22年5月20日 ～ 平成23年3月31日	1,800,000	-----	阿南市	電気:中村 雄一
22	小・中学校及び生涯学習への講師派遣等	平成22年5月20日	平成22年5月20日 ～ 平成23年3月31日	100,000	-----	阿南市	制御:岩佐 健司
計				3,100,000	0		
23	LED基板等開発	平成23年5月20日	平成23年5月20日 ～ 平成24年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川 竜生
23	電子自治体構築についての研究	平成23年5月20日	平成23年5月20日 ～ 平成24年3月31日	1,800,000	-----	阿南市	電気:中村 雄一
23	小・中学校及び生涯学習への講師派遣等	平成23年5月20日	平成23年5月20日 ～ 平成24年3月31日	100,000	-----	阿南市	制御:岩佐 健司
計				3,100,000	0		

(出典 阿南市との連携研究一覧)

資料A－1－②－2

教育改善に関わる研究活動実績

- ① ティーチング・ポートフォリオの導入方法について，論文集『高専教育』，第 34 号，pp. 709-714(2011)
- ② 生が主体的に参加する授業を目指して－内発的動機を高める様々な手法－，大学教育研究ジャーナル第 8 号，pp. 25-31(2011)
- ③大学間連携を活用した教員の能力開発活動－小規模校のFD実践－，第 17 回大学教育研究フォーラム発表論文集，pp. 85-86，京都大学(2011)
- ③中学生が高専学生寮に期待するもの，論文集『高専教育』，第 34 号，pp. 837-842(2011)
- ④ボランティア活動は高専生にどのような教育効果をもたらすか－地域と高専の共生を目指して－，論文集『高専教育』，第 34 号，pp. 797-802(2011)
- ⑤小論文作成指導の実用性と教育効果，論文集『高専教育』，第 33 号，pp. 497-500(2010)
- ⑥心理動詞の第二外言語習得：教科書と学習者コーパスの分析，第 36 回全国英語教育学会大阪研究大会発表予稿集，pp. 384-386(2010)
- ⑦高専における持続的授業改善システムの構築－SPOD の活用－，大学教育研究ジャーナル第 7 号，pp. 21-29(2010)
- ⑧成績不審者を対象とした特別数学補習の教育的効果，論文集『高専教育』，第 33 号，pp. 501-504(2010)
- ⑨学生と学生を結ぶスピーチ，論文集『高専教育』，第 33 号，pp. 169-174(2010)
- ⑩高等専門学校の電気工学分野の活性化をめざした電気系学生の就学・就業選択に関する意識調査，論文集『高専教育』，第 33 号，pp. 857-862，2010.

(出典 教育改善に関わる研究活動実績)

資料A－1－②－3

ものづくり教育・創造教育に関わる研究活動実績

- ① 阿南高専電気電子工学科におけるシーケンス制御に関する学生実験の改良，論文集『高専教育』，第34号，pp. 435-440(2011)
- ② 品開発を意識した学生実験におけるものづくり教育，論文集『高専教育』，第34号，pp. 25-28(2011)
- ③ ものづくりエリート技術者養成コーオペ教育プロジェクトの取り組みと成果，日本工学教育協会，工学教育，第58巻，第4号，pp. 65-70(2010)
- ④ 阿南高専におけるコーオペ教育の教育効果，平成22年度全国高専教育フォーラム・教育教員研究集会講演論文集，pp. 347-350(2010)
- ④ 次元CADから始める製図教育，論文集『高専教育』，第33号，pp. 185-190(2010)
- ⑤ 阿南高専電気電子工学科における初年次ものづくり実習の試み－希望学科再選択制度への影響－，論文集『高専教育』，第33号，pp. 511-516(2010)
- ⑥ LED 関連技術者養成講座におけるマイコン回路実習の取り組み，論文集『高専教育』，第33号，pp. 851-856(2010)
- ⑦ LED 関連技術者養成講座における PLC 実習の取り組み，日本高専学会 第16回年会講演会 講演論文集，pp. 79-80(2010)

(出典 ものづくり教育・創造教育に関わる研究活動実績)

資料 A-1-②-4

学術表彰一覧

多田 博夫 機械工学科 教授

平成 18 年度国立高等専門学校機構理事長奨励賞

独立行政法人国立高等専門学校機構

平成 19 年 3 月 23 日

坪井 泰士 一般教科 教授

平成 19 年度教育教員研究集会（学生指導分野）理事長賞

独立行政法人国立高等専門学校機構

平成 19 年 8 月 10 日

笹田 修司 建設システム工学科 教授（受賞当時：准教授）

第 7 回木橋技術に関するシンポジウム論文賞

社団法人土木学会

平成 20 年 8 月 22 日

西本 浩司 機械工学科 助教

平成 20 年度溶接学会研究発表賞および論文奨励賞

社団法人溶接学会

平成 21 年 4 月 23 日

釜野 勝 電気電子工学科 准教授

平成 21 年度国立高等専門学校教員顕彰優秀賞

独立行政法人国立高等専門学校機構

平成 22 年 3 月 23 日

原野 智哉 機械工学科 准教授

平成 21 年度国立高等専門学校教員顕彰分野別優秀賞

独立行政法人国立高等専門学校機構

平成 22 年 3 月 23 日

西本 浩司 機械工学科 助教

第 74 回レーザ加工学会優秀ポスター賞

社団法人高温学会レーザ加工学会

平成 22 年 12 月 6 日

（出典 学術表彰一覧）

資料A-1-②-5

平成22年度 新聞報道記事の一部

- ・平成22年9月30日 徳島新聞 内容：阿南高専 ベンチャー企業設立
- ・平成22年10月4日 徳島新聞 内容：阿南高専ベンチャー企業で研究開発事業化
- ・平成22年10月6日 徳島新聞 内容：阿南高専ベンチャー企業側に事業説明
- ・平成22年10月6日 日本経済新聞 内容：阿南高専ベンチャー企業が発足 加工用に竹の粉繊維生産
- ・平成22年10月6日 毎日新聞 内容：阿南高専ベンチャー企業設立 竹の有効利用探る
- ・平成22年10月6日 読売新聞 内容：阿南高専に竹研究拠点 ベンチャー企業設立
- ・平成22年10月8日 日刊工業新聞 内容：阿南高専 竹製品開発へVB
- ・平成23年1月26日 日本経済新聞 内容：阿南高専発ベンチャー企業 OB使い技術相談

(分析結果とその根拠理由)

地域社会へ貢献する研究体制も整っており、また効果的な教育を実現させるための研究活動を継続的に行っている。

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点到係る状況)

研究活動の点検・評価と活性化方策として、以下の項目が挙げられる。

(a) 研究活動に奨励金を付与する方策

研究費の優先的配分措置として、校内予算配分に教育業績ポイントおよび研究業績ポイントに基づく研究費の傾斜配分、専攻科生支援費を創出し、教育研究の活性化と質の向上を図っている。この方式については教員の意見を聞き、毎年点検・改善している。平成22年度の研究費傾斜配分については研究業績の発表方法、学術専門誌論文、紀要論文、プロシーディング、口頭発表等でポイントを定め、総額400万円を各教員のポイント数に応じて配分した。

(b) 創造テクノセンター棟研究室の優先的使用

外部資金を獲得した研究は優先的に創造テクノセンター内実験室を使用できるような体制になっており、毎年点検している。

(c) 研究成果の発表を支援する方策

ほとんどの教員が研究に学生を取り込んでおり、学生の研究開発能力と発表能力を養っている。専攻科学生は、学会において必ず研究発表しなければならないため、学会出席旅費の援助を行っている。最近では、外国での国際会議発表例もある。限られた予算内で

きる限り多くの学生が研究発表できるよう毎年検討している。

(d) 科学研究費の獲得促進

教員の文部科学省科学研究費補助金申請を総務課企画係が支援し、原則として一人1申請以上の実現を目標に展開してきた。平成22年度は、学校全体として申請件数75件、採択件数8件、採択金額1,037万円である(資料A-1-③-1, 資料A-1-③-2)。申請率を100%に近づけるための啓発と申請書の査読を継続する。

(e) 外部資金の獲得の取り組み

地域連携・テクノセンターでは、共同研究の促進のため、共同研究契約1件につき一定額を地域連携・テクノセンター予算の中から援助している。知的財産・研究支援部門では財団等からの研究奨学金募集について積極的に応募を勧めている。また、地域連携・テクノセンターではACTフェローシップ会員を訪問して外部資金獲得に努力するほか、国、県、阿南市及び阿南商工会議所から受託研究費を獲得できるよう努力している。また、地域連携・テクノセンターが企画し、ACTフェローシップ会員企業を訪問して情報収集し、共同研究等の可能性を調査している。平成22年度から新たな取り組みとして、教員から専門分野のテーマを募集し、企業が希望するテーマで勉強会を開催している。これにより、教員のシーズと企業ニーズのマッチングあるいは新たな取り組みが図られることが期待される。

その結果、平成22年度では、受託研究12件、共同研究14件、奨学寄付金625万円、その他補助金89,867円であった。これらの研究活動は地域連携・テクノセンターの年報である「技術の光 あなん高専」に毎年報告され、分析・改善している。従来開催していた気楽な情報交換会「あなん高専交流プラザ」は平成21年度から「阿南高専交流会」と改め、本校教員と地域企業との交流が一層深まるように努力している。以上のように、外部資金獲得には国、県、市、各種団体と常に連携して研究開発施策情報を得ること、また企業を訪問して企業独自の情報を得ることなど地道な努力が必要であり、地域連携・テクノセンター委員会では活動状況を年度末に総括し、年度初めには改善策を検討している。

資料A-1-③-1

平成22年度科学研究費申請状況

学 科 名		A 教員数	B 申請者	C 継続者	D 件数	E 未申請者	備 考
		(人)	(人)	(人)	(B+C) (件)	(A-D) (人)	
一 般 教 科	H21	20	18	1	19	1	
	H22	19	17	1	18	1	
機 械 工 学 科	H21	12	10	1	11	1	
	H22	11	11	0	11	0	
電 気 電 子 工 学 科	H21	10	9	0	9	1	
	H22	11	9	0	9	2	
制 御 情 報 工 学 科	H21	12	10	0	10	2	
	H22	12	12	0	12	0	
建 設 シ ス テ ム 工 学 科	H21	12	9	3	12	0	
	H22	11	8	3	11	0	研究員含む
小 計	H21	66	56	5	61	5	
	H22	64	57	4	61	3	
寄 附 講 座	H21	3	2	0	2	1	
	H22	3	3	0	3	0	
技 術 部	H21	12	9	0	9	3	
	H22	12	11	0	11	1	
合 計	H21	81	67	5	72	9	
	H22	79	71	4	75	4	
注) 1. 上段は平成21年度申請状況							
2. 申請者の数には、継続者の数を含まない。							

(出典 平成22年度科学研究費申請状況一覧)

資料A-1-③-2

平成22年度科学研究費補助金採択者一覧

研究種目	所 属	氏 名	研 究 課 題	交付額 (千円)
基盤研究C	建設	堀井 克章	廃棄資源のみからなるコンクリートと補強用竹筋を複合化した環境配慮型建設材料の開発	1,170
	一般	勝藤 和子	英語動詞の第二言語習得に関する研究と教科書教材への応用	390
	機械	吉田 岳人	反応性パルス励起プロセスによる酸化窒化物半導体ナノ結晶の可視光応答化	2,730
	制御情報	森住 昇	カオス・フラクタルに基づく魚類行動解析を用いた定置網のクラゲ被害防止技術の開発	1,170
	制御情報	岡本 浩行	ナノサイズのリング共振器による光波長フィルタの開発	1,300
研究活動スタート支援	建設	河井 崇	人工干潟の有効性検証:生態学的アプローチによる検討	1,274
若手研究(B)	建設	大田 直友	浚渫土人工干潟の有効性検証 ー絶滅危惧種シオマネキの生息を支える環境要因の解明	650
	機械	西本 浩司	レーザー圧接法によるチタン異材接合技術の開発	1,690
奨励研究	技術室	立石 清	4脚歩行ロボットを用いたI2C通信による分散処理システム学習キットの試作研究	510
	技術室	東條 孝志	高温・酸素雰囲気下における配列制御型ナノ構造の作製	440

(出典 平成22年度科学研究費補助金採択者一覧)

(分析結果とその根拠理由)

研究活動等の実施状況や問題点はほぼ把握できており、改善の体制もできている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 新しい授業内容や授業方法を提案するための研究活動がなされている。
各教員が自分の授業を改善しようと常に心がけている。
- ・ 研究活動を通じた創造教育を推進している。
研究に学生を取り込んで教育している。
- ・ 企業等との共同研究実施体制が整備されている。
知的財産・研究支援部門が積極的に活動している。
- ・ 地域社会との連携・協力がなされる。
地域連携部門が積極的に活動し、阿南高専交流会等を実施して地域の人と交流を進めている。
- ・ 阿南市との連携・協力がなされている。
連携協定が結ばれ、研究が継続している。
- ・ 外部資金獲得の取組みを実施している。
県、市と協調し、研究情報を得て、地域に適した研究を実施している。

(改善を要する点)

- ・ 産学連携に参画する教員を増強するシステムの構築が必要である。
最新の教員のシーズを吸い上げ、勉強会、技術相談を通して企業ニーズとのマッチングを図る。
- ・ 知的財産の取得を促進する方策が必要である。

教員向けの知財セミナーの充実，学生向けの産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校を通して，知的財産の取得に関する活動の活性化を図る。

（３）選択的評価事項Aの自己評価の概要

本校の研究活動の状況に関しては全教員が研究テーマを持ち，活動時間の30～40％を研究に当てている。研究体制としては，学内的には地域連携・テクノセンターが地域との窓口となり，外部資金を獲得して共同研究等を積極的に行う体制が既にできている。また本校技術職員は一カ所に統合され，有機的に技術支援を行うことにより，飛躍的な研究の促進が図られている。学外的には阿南高専助成会（ACTフェローシップ，97社，個人会員16人）が既に平成7年に結成されており，資金援助を受けるほか，産学連携が深まっている。また阿南市との連携協定，国，県，阿南商工会議所との密接な連携が外部資金導入，研究等に功を奏している。

以上の体制の下に，教員の研究活動は年度ごとに多少のばらつきはあるが，相応の研究活動はできている。民間との共同研究等についても，工業県でない地方都市阿南市にあって健闘している。教員は教科研究も行い，教育の個性化，活性化，高度化に力を入れている点も評価できる。特許，受賞，新聞記事実績も多くはないが揃っており，相応の研究開発が行われていると判断できる。問題点も把握できており，改善体制もできている。

（４）目的の達成状況の判断

上記のような自己評価により，本校の研究活動は高等専門学校の目的はもちろんのこと，本校の目的に対して，達成状況が良好である。

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

徳島県南部地域における唯一の高等教育機関として、地域における以下の教育サービス活動を行う。

- (1) 公開講座
- (2) 地域の教育機関との連携活動
- (3) 地域住民への教育サービス
- (4) 図書館、体育施設の本校施設の外部開放

2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校では、正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、公開講座を実施している。また、阿南市における地域の教育機関との連携活動や地域住民への教育サービスを行っている。さらに、本校の図書館、体育館等の施設を外部へ開放している。

公開講座の実施テーマは、各学科及び地域連携・テクノセンターの地域連携部門において企画・立案している。企画・立案されたテーマは企画係で取りまとめている。平成22年度は13テーマの公開講座を実施した(資料B-1-①-1)。

本校は平成15年度より地元・阿南市の振興・発展及び教育研究の充実に図るため、同市との連携協力に関する協定を結んでいる(前述資料A-1-①-4)。連携協力の項目として、「(3) 初等・中等教育及び高等教育の推進に関すること。」及び「(4) 地域住民の生涯学習の推進に関すること。」が掲げられている。項目(3)は阿南市内の教育機関との連携活動に対応している。具体的には小・中学校への出張授業を行っている。項目(4)は地域住民への教育サービスに対応している。主な活動として、生涯学習・市民講座等への講師派遣を行っている。本校の全教員より実施可能な授業内容を募集調査し、阿南市側に提示する(資料B-1-①-2)。提示したテーマのなかから阿南市側の要望により出張授業・講師派遣が行われる。平成22年度は10テーマについて出張授業・講師派遣が実施された(資料B-1-①-3)。

本校は、平成19年度の文部科学省科学技術振興調整費による地域再生人材創出拠点の形成プログラムとして「徳島県南のLED関連技術者養成拠点の形成」が採択された。2年間コースでLED関連の応用製品を開発できる技術者を養成している。5年間で40名の修了生を目標としていたが、受講の志願者が多く、最終年度である平成23年度末で約50名の修了見込みとなっている。(資料B-1-①-4)

本校の図書館、体育館等の施設の外部開放については、その利用規則を定め、Webサイト等を通じて利用案内を行っている(資料B-1-①-5, 6)。また、平成23年から阿南高専図書館は阿南市立図書館との連携協力により、相互貸借が可能となっている。

資料B-1-①-1

平成 22 年度公開講座実施状況一覧

講座名	開催日	受講対象者	受講定員	受講者数	講 師
シーケンス制御基礎 Fundamentals of Sequential Control	4月9日, 16日, 5月14日, 21日, 28日, 6月11日, 18日 (計7回)	企業従事者	2	1	松本 高志 伊丹 伸 松浦 史法
テニスを楽しもう Let's Enjoy Tennis	7月20日～8月5日・毎 火・木曜 (計6回)	初心者・中 学生以上・ 一般の方	16	14	新井 修 原野 智哉 大北 裕司 高岸 時夫 木原 義文 立石 清
ACCESSを使って顧客や商品を管理しよう！ －仕事効率UP間違いなし！－ Managing the information of customers and products based on the Database system － Introduction to Microsoft Access－	7月27日～7月30日 (計4 回)	中学生以 上・一般の 方	15	7	長澤 智明 中村 雄一 岡本 浩行 上原 信知 一ノ瀬元喜 川端 明洋 武蔵 美緒 東條 孝志
自分で作るインターネットウェブサーバー技術入 門 Building a home-made Web server with Linux	8月2日～8月6日 (計5回)	高校生以 上・一般の 方	8	1	武知 英夫 小林 美緒
小中学生親子のための阿南高専夏休み自由研究 －光に反応するダンシングフラワーを作ろう－ Family Summer Seminar in Anan Kosen Let's make Dancing-flower which reacts to the light	8月21日	小5, 6 年, 中学生	5	5	福見 淳二
小中学生親子のための阿南高専夏休み自由研究 －自分の描いた絵をパソコンで動かそう－ Family Summer Seminar in Anan Kosen Let's move your drawings !!			5	4	岡本 浩行
小中学生親子のための阿南高専夏休み自由研究 －電気から音へ, スピーカを作ろう！ Family Summer Seminar in Anan Kosen Let's make your speaker: from electricity to sound			5	6	中村 雄一
小中学生親子のための阿南高専夏休み自由研究 －科学警察研究所 (鑑識) 入門－ Family Summer Seminar in Anan Kosen Workshop for discernment (National Research Institute of Police Science)			20	10	一森 勇人 谷中 俊裕 立石 学
折り紙博士の折り紙講座 Let's enjoy ORIGAMI with Dr. Origami.	8月29日	中学生以 上・一般の 方	30	8	川崎 敏和 宮本 陽生
レーザーでオリジナルネームプレートを作ろう！ Let's make your original nameplate by the laser processing !	9月26日	小5, 6 年, 中学生	8	3	木原 義文 森時 秀司 立石 清 立石 学
タグラグビー体験 Tag Rugby Experience	10月9日, 23日, 11月13 日, 27日 (計4回)	小・中学生	15	11	一森 勇人 濱田 忠彦
中学生のための高専数学セミナー Kosen Mathematics Seminar for Junior High School Students	11月13日	中学2、3年 生	25	4	櫛田 雅弘 田中 広志 山田耕太郎
レーザーでオリジナル時計を作ろう！ Let's make your original clock by the laser processing !	11月28日	小5, 6 年, 中学生	8	6	木原 義文 高岸 時夫 森時 秀司 遠野 竜翁 立石 清

(出典 平成 22 年度公開講座実施状況一覧)

資料A－1－①－4 (再掲)

阿南市との連携研究

受入 年度	研究・寄附内容等	契約・歳入日	研 究 期 間 等	契 約 金 額 等		契約・寄附 業者名等	研究担当者名等
				契約金額等 (単位:円)	研究料 (単位:円)		
18	LED基板等開発	平成18年6月30日	平成18年6月30日 ～ 平成19年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
18	電子自治体構築についての研究	平成18年6月30日	平成18年6月30日 ～ 平成19年3月31日	1,750,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
18	大気汚染対策として事業場における絶滅危惧種への対応検討と共生事業モデルの策定	平成18年6月30日	平成18年6月30日 ～ 平成19年3月31日	2,050,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
	計			5,000,000	0		
19	LED基板等開発	平成19年5月16日	平成19年5月16日 ～ 平成20年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
19	電子自治体構築についての研究	平成19年5月16日	平成19年5月16日 ～ 平成20年3月31日	1,750,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
19	大気汚染対策として事業場における絶滅危惧種への対応検討と共生事業モデルの策定	平成19年5月16日	平成19年5月16日 ～ 平成20年3月31日	3,000,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
	計			5,950,000	0		
20	LED基板等開発	平成20年5月9日	平成20年5月9日 ～ 平成21年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
20	電子自治体構築についての研究	平成20年5月9日	平成20年5月9日 ～ 平成21年3月31日	1,750,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
20	大気汚染対策として事業場における絶滅危惧種への対応検討と共生事業モデルの策定	平成20年5月9日	平成20年5月9日 ～ 平成21年3月31日	1,420,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
	計			4,370,000	0		
21	LED基板等開発	平成21年5月8日	平成21年5月8日 ～ 平成22年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川竜生 外
21	電子自治体構築についての研究	平成21年5月8日	平成21年5月8日 ～ 平成22年3月31日	1,800,000	-----	阿南市	制御:田中 達治 外
21	大気汚染対策として事業場における絶滅危惧種への対応検討と共生事業モデルの策定	平成21年5月8日	平成21年5月8日 ～ 平成22年3月31日	726,000	-----	阿南市	建設:大田 直友
	計			3,726,000	0		
22	LED基板等開発	平成22年5月20日	平成22年5月20日 ～ 平成23年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川 竜生
22	電子自治体構築についての研究	平成22年5月20日	平成22年5月20日 ～ 平成23年3月31日	1,800,000	-----	阿南市	電気:中村 雄一
22	小・中学校及び生涯学習への講師派遣等	平成22年5月20日	平成22年5月20日 ～ 平成23年3月31日	100,000	-----	阿南市	制御:岩佐 健司
	計			3,100,000	0		
23	LED基板等開発	平成23年5月20日	平成23年5月20日 ～ 平成24年3月31日	1,200,000	-----	阿南市	電気:長谷川 竜生
23	電子自治体構築についての研究	平成23年5月20日	平成23年5月20日 ～ 平成24年3月31日	1,800,000	-----	阿南市	電気:中村 雄一
23	小・中学校及び生涯学習への講師派遣等	平成23年5月20日	平成23年5月20日 ～ 平成24年3月31日	100,000	-----	阿南市	制御:岩佐 健司
	計			3,100,000	0		

(出典 阿南市との連携研究一覧)

資料B－1－①－2

平成 23 年度講師派遣等募集調査票

所属学科	職名	氏名	講演・指導テーマ	概 要(内容)	対 象 所要時間数	課 題 区 分(○を記入)			
						1 小・中学校等	(1)情報教育の推進	(2)環境教育の推進	(3)その他 2 地域住民の生涯学習の推進
例○○○○	○○○	○○ ○○○	量子論の起源と発展	量子論が何故必要とされ、現代社会にどのように役立っているかについて解説する	小中学校教職員 2時間		○		
例○○○○	○○○	○○ ○○	ストレスを緩和する芸術両方を体験しよう	絵画を通じたコミュニケーションでストレスを解消しよう	一般社会人				○
例○○○○	○○○	○○ ○○	理科実験	LEDを用いた光の実験、木材を利用した楽器等	小・中学生 1～2時間		○		

(出典 平成 23 年度講師派遣等募集調査票)

資料B-1-①-3

③小・中学校及び生涯学習への講師派遣専門部会

平成22年度 小・中学校及び生涯学習への講師派遣等の実績について

番号	実施月日	実施場所	実施対象	授業・講座名等	所 属 学 科	氏 名
1	4月24日, 5月22日, 6月19日, 7月10日, 8月21日, 9月11日, 10月16日, 10月30日, 11月6日, 11月20日, 12月18日, 1月15日, 2月19日	阿南市科学センター 発明クラブ	小学生35名	理科実験	一般教科	一森勇人
2	5月17日～5月31日, 上記の休日を除く月曜日, 6月14日, 28日, 7月12日, 10月25日, 11月8日, 11月22日, 12月29日, 12月20日, 1月24日, 2月21日, 3月7日	新野小学校	小学生4～6年 パソコンクラブ	パソコン講座	電気電子工学科 制御情報工学科 一般教科	中村 雄一 田中 達治 福田 耕治 福見 淳二 岡本 浩行 伊丹 伸 安野 恵実子 藤居 岳人 長澤 智明
3	5月14日～7月16日, 10月15日～12月17日, 1月14日～3月11日 上記の休日を除く金曜日	長生小学校	小学生20名	パソコン講座	電気電子工学科 制御情報工学科 一般教科	中村 雄一 田中 達治 福田 耕治 福見 淳二 岡本 浩行 伊丹 伸 安野 恵実子 一ノ瀬 元喜 藤居 岳人 長澤 智明
4	5月26日	羽ノ浦小学校	5年生90名 2班に分けて実施	地球環境と電気自動車	機械工学科	多田博夫
5	7月24～7月26日	阿南商工会議所	小学生中心に 約150人	阿南夏まつりLEDブッシュライト体験工作	電気電子工学科	釜野 勝 上原 信知
6	8月1日	見能林公民館	見能林スタ ディークラブ10 名	エンジンの話	制御情報工学科	宮城 勢治
7	8月20日	ホテル石松	阿南市倫理法人会 会員11名	那賀川の水事情について	企業技術者等活用プログラム	森岡 和美
8	10月27日, 12月1日, 15日, 2月23日	藤井病院	一般成人 20名	万葉集を楽しむ会・講師	一般教科	錦織 浩文
9	11月11日	阿南市役所	阿南市環境保全推進員会議 50名	那賀川の水事情について、渇水事情、那賀川河川整備計画、(株)バンブーケミカル研究所の取り組みについて	企業技術者等活用プログラム	森岡 和美
10	11月27日	アグリあなん スタジアム	高校球児(徳島県高野連所属) 約90名	遠投・ロングティー計測	建設システム工学科	堀井克章

(出典 平成22年度 阿南市との連携事業調べ)

LED 技術者養成講座 募集要項

徳島県南のLED関連技術者養成講座

平成22年度4月開講 受講生募集要項

阿南高専では、文部科学省の科学技術振興調整費〈地域再生人材創出拠点の形成〉事業として、徳島県及び阿南市と連携し、標記の人材養成講座を開講しており、今年で4年目になります。

1. 目的

本校の実践的な教育資源を活かして、LEDに関する事業や技術に関心を持つ人を幅広く受け入れ、基礎から最先端技術までを講義・実習します。受講者のレベルに合わせたオーダーメイドカリキュラムを実施し、LEDに関する基礎及び応用技術を修得してLED応用製品の設計・製作を行うことができる技術者を養成し、県南の地域経済活性化を図るとともに徳島県の知の拠点として地域に貢献することを目指します。

2. 養成対象

- ・ LEDに関する技術教育を受けた経験のない人
- ・ より高度な専門教育を希望する人

3. 募集人員

10名程度

4. 募集期間

平成22年 1月7日（木）～ 3月 1日（月）

5. 出願書類提出先

〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265

阿南工業高等専門学校総務課企画係

TEL: 0884-23-7215/FAX: 0884-22-5424

E-mail: kikaku@anan-nct.ac.jp

6. 提出書類

受講志願書

※できる限り所属企業等から推薦を得てください。

7. 選考方法

書類と面談等により決定します。

（特に、受講を希望する動機と目標に対する強い意欲、やる気を評価します。）

8. 面談日時及び場所

面談日時等は後日連絡します。

9. 入学科および受講料

無料

10. 開講時間

平日（金曜日）18:30～20:30

土曜日 8:30～10:30、10:40～12:40

11. 受講期間

2年以内（受講科目選択により異なります。）

12. 修了要件

24単位中10単位以上修得すること

（レベルに合わせたオーダーメイドカリキュラムシステムによる）

（出典 阿南高専 Web サイト LED 技術者養成講座）

資料B-1-①-5

阿南高専 Web サイト 図書館利用案内



阿南工業高等専門学校図書館

阿南工業高等専門学校図書館のホームページです。

文字サイズ: [小](#) [中](#) [大](#)

[検索](#)

[ホーム](#)
[個人情報の保護](#)
[サイトマップ](#)
[よくあるご質問](#)
[お問い合わせ](#)

サイトメニュー

図書館利用案内

- [校内の利用者](#)
- [校外の利用者](#)
- [徳島県大学図書館協会加盟館](#)
- [阿南市立図書館との連携協力](#)
- [イベントカレンダー](#)

図書資料一覧

■ [蔵書検索](#)

■ [Webサービス（文献複写・現物借用）](#)

■ [読書感想文優秀作品](#)

■ [電子ジャーナル・データベース](#)

■ [リンク集](#)



お知らせ ⊕ 過去のお知らせ一覧

- 2011年02月16日 [学年末休業・春季休業期間中の図書貸出等について\(お知らせ\)](#)
- 2011年01月12日 [阿南市立図書館との相互貸借について\(お知らせ\)](#)
- 2010年12月20日 [図書館の臨時閉館について\(お知らせ\)](#)
- 2010年12月07日 [冬季休業期間中の図書貸出及び開館時間等について\(お知らせ\)](#)
- 2010年07月22日 [夏季一斉休業に伴う休館日について\(お知らせ\)](#)

目的別リンク

 図書館を使う ■ 校内の利用者 ■ 校外の利用者 ■ 徳島県大学図書館協会加盟館 ■ 文献複写依頼	 図書を探す ■ 蔵書検索 ■ 電子ジャーナル・データベース ■ 配架雑誌一覧 ■ 学習支援図書リスト ■ 受入図書リスト ■ DVD一覧	 疑問・質問 ■ よくあるご質問 ■ お問い合わせ ■ サイトマップ ■ アクセスマップ ■ 個人情報の保護
--	---	---

開館カレンダー



(出典 阿南高専 Web サイト 図書館利用案内)

資料B-1-①-6

阿南高専 Web サイト 体育施設利用案内

独立行政法人国立高等専門学校機構
阿南工業高等専門学校
Anan National College of Technology

Japanese/English

Home 学校案内 学科案内 教育・研究 産学公・地域連携 キャンパスライフ 付属施設・図書館 入試情報

受験生の皆さまへ
入試情報、Q&Aなど

在校生・保護者の皆さまへ
卒業後の進路、奨学金など

企業・研究者の皆さまへ
産学連携、調査情報、求人など

地域の皆さまへ
公開講座、施設利用案内など

卒業生の皆さまへ
証明書、同窓会など

Home / 学校案内 / 体育施設の利用案内

体育施設の利用案内

阿南高専では、授業・学生の課外活動・本学の行事等に支障のない限り、地域との交流及び地域の文化向上のため学校施設の開放(有料)をしております。

●開放施設の種類及び使用料等

施設名	施設使用料	光熱水料等	開放期間	備考
野球場(1面)	2,500	2,500	5月～10月	
テニスコート(1面)	1,000	300	5月～10月	全天候型

※上記開放期間内の19:30～22:00を基本としています。

●使用に当たっての注意事項

1. 使用料は、原則として払い戻しいたしません。
2. 使用時間には準備や後始末に要する時間も含まれますので注意して下さい。
3. 使用後は、直ちに使用箇所の整備を行って下さい。
4. 開放施設は、禁煙ですから喫煙は絶対しないで下さい。
5. 使用目的以外には使用できません。また使用の権利を他の者に転貸し出来ません。

●手続き

1. 使用を希望する施設が使用可能かどうか確認して下さい。
2. 使用可能であれば以下の不動産一時貸付申請書を受付窓口へ提出して下さい。

不動産一時貸付申請書(1日用) ← PDFファイル
不動産一時貸付申請書(複数日用) 不動産一時貸付申請書(複数日用別紙) ← PDFファイル

3. 申請書提出の受付期間及び時間は、使用する日の2週間前までの午前8時30分～17時00分の間です。
4. 申請書を提出、本学から承認連絡後、必ず使用日の前日までに指定口座に振り込み願います。
5. 入金確認後、使用承認書をお渡しします。これで手続きは終了です。

●受付窓口及び問い合わせ先

総務課施設係
TEL: 0884-23-7125
E-mail: sisetsu@anan-nct.ac.jp

動画で阿南高専

(出典 阿南高専 Web サイト 体育施設利用案内)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、地域住民に対する教育サービスとして、公開講座及び出張授業・講師派遣が実施されている。公開講座は、各学科と地域連携部門が連携しながら企画・案内・実施している。出張授業・講師派遣は阿南市との連携協力のもとに実施され、実績を挙げている。また、図書館、体育館等の施設を外部開放し、地域の文化・教養の増進を図っている。さらに図書館は阿南市立図書館と相互貸借が可能となっており、地域住民の利便性を向上させている。

以上のことから、本校における正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されている。

観点B－1－②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

公開講座の受講者を対象に満足度を測る為、アンケートを実施している（資料B－1－②－1）。平成22年度のアンケート結果では、全受講生の95%以上から講座に対して充分満足・概ね満足との評価を得ている（資料B－1－②－2）。

阿南市との連携協力では、連携協力推進会議を設置し、定期的に意見交換を行っている。出張授業・講師派遣等についても連携協力推進会議を中心に議論、改善策を検討している（資料B－1－②－3）。平成23年度は徳島サテライトを設置し、徳島市中心部でも公開講座を開講する計画である。また、全テーマで統一のアンケートを実施し受講者のニーズの把握に努めている（資料B－1－②－4）。

資料B－1－②－1

平成22年度公開講座受講生アンケート

平成22年度公開講座
受講生アンケート

この度は本校の公開講座を受講いただき誠に有難うございました。今後の公開講座の充実を図るため参考になりますので、アンケートに御回答頂けますようお願い致します。

講座名 () (月 日 於：阿南高専)

- | | |
|---|---|
| 1 講座期間についてお答えください。
☐ 長い (日位がよい)
☐ 適当
☐ 短い (日位がよい) | 2 講座時期についてお答えください。
☐ 早い
☐ 適当
☐ (月 日ごろが良い) |
| 3 講座の時間についてお答えください。
☐ 長い (時間位がよい)
☐ 適当
☐ 短い (時間位がよい) | 4 講義内容についてお答えください。
☐ 十分理解できた
☐ 大体理解できた
☐ あまり理解できなかった |
| 5 受講料についてお答えください。
☐ 高い (円位がよい)
☐ 適当
☐ 安い (円位がよい) | 6 講座のタイトル・テーマについてお答えください。
☐ 適当であった
☐ 不適當であった
☐ その他 () |
| 7 講座を何からお知りになりましたか？
☐ 徳島新聞広報
☐ 高専ホームページ
☐ A C Tフェローシップによる案内
☐ その他 () | 8 講座の全体的な満足度について評価してください。
☐ 充分満足できた
☐ 概ね満足できた
☐ 普通
☐ あまり満足できなかった
☐ 全く満足できなかった |

- 9 今回の公開講座について改善すべき点がありましたら、具体的にご記入ください。

- 10 今後開設してほしい講座がありましたら、ご記入ください。

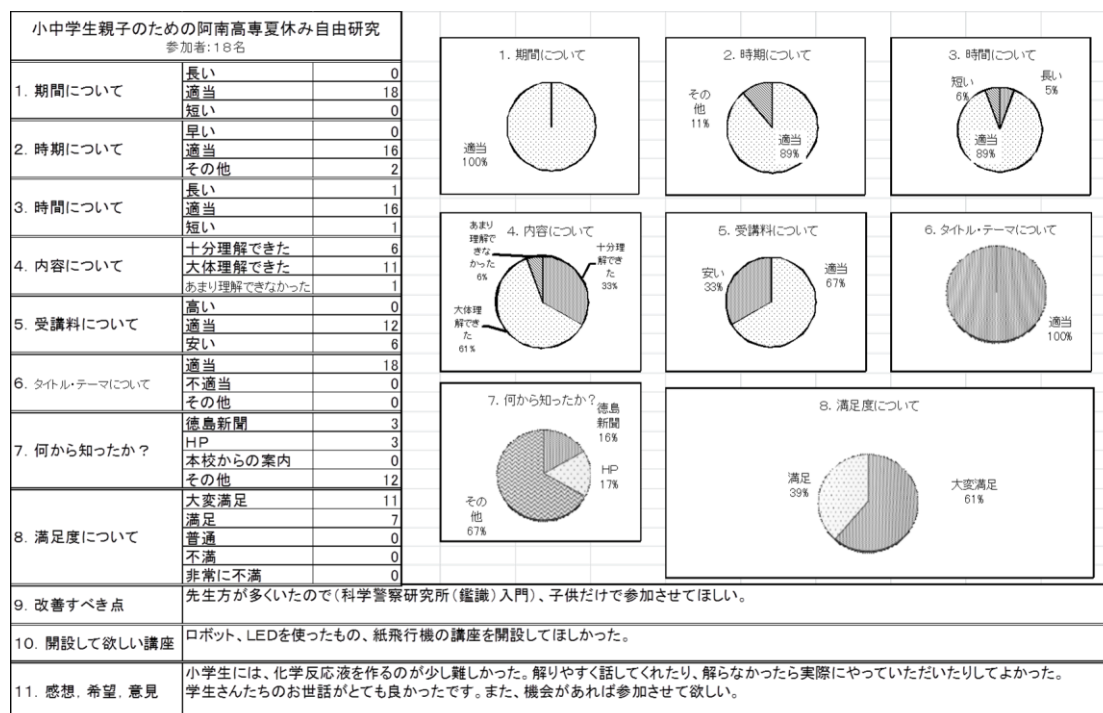
- 11 その他、本校の公開講座についての感想，希望，意見が御座いましたら自由にご記入ください。

御協力ありがとうございました。

(出典 平成22年度公開講座受講生アンケート)

資料B-1-②-2

平成22年度公開講座受講生アンケート結果（抜粋）



(出典 平成22年度公開講座受講生アンケート結果)

資料B－1－②－3

阿南市との連携協力推進会議

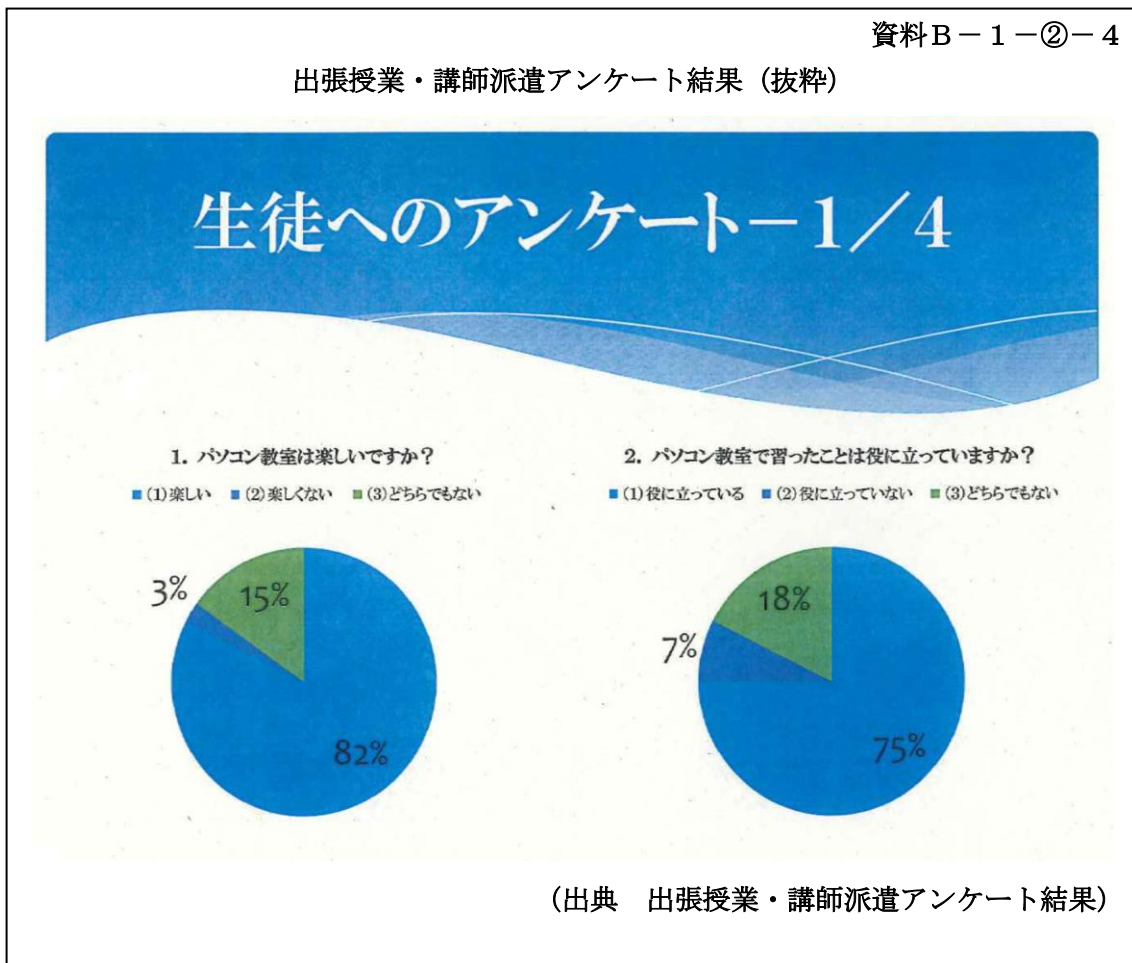
平成22年度地域連携部門会議（第1回）議事概要

- 1 日時 平成23年2月15日（火）15：30～16：05
- 2 場所 管理棟2F セミナー室
- 3 出席者 部門長 一森 勇人
部門員 福見 淳二、中村 雄一（正木代理）、松保 重之
欠席者 部門員 西本 浩司
陪席者 小西企画係長、呉羽企画係員
- 4 議事
 1. 平成22年度公開講座実施報告について
部門長より資料1について実施報告書のとおり13件無事実施されたとの報告があった。
その中で、受講者が少ない講座について、内容・広報等検討することとした。
 2. 平成23年度公開講座実施について
資料2の各講座について全講座実施することです承された。
その中で、「小中学生親子のための阿南高専夏休み自由研究」のテーマは、各学科において3月下旬ごろまでに計画してもらうこと、また、中学生のための高専数学セミナー1・2については、タイトル・広報の検討等することとした。

（出典 平成22年度地域連携部門会議（第1回）議事概要録）

資料B－1－②－4

出張授業・講師派遣アンケート結果（抜粋）



（分析結果とその根拠理由）

公開講座に対しては全テーマで統一的なアンケートを実施し、受講生からの講座に対する評価も良好である。また、アンケート結果をもとに地域連携部門で検討し、徳島サテライトを設置する等の改善を行っている。出張講義・講師派遣については、全テーマに対するアンケートの実施が今後の課題であるが、連携協力推進会議を中心として、改善策が検討されている。

以上のことから、本校における正規課程の学生以外に対する教育サービスの成果が上がっている。また、改善のためのシステムについては検討の余地があるが、ほぼ機能している。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

阿南市との連携協力により、地域に密着した教育サービスを提供できている。

（改善を要する点）

出張講義・講師派遣に対する統一的な評価方法が定まっていない。このため有効な内容になっているかどうかを検証できていない。

（３）選択的評価事項Bの自己評価の概要

本校では正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、公開講座及び阿南市との地域連携による小・中学校への出張授業、生涯学習・市民講座への講師派遣などを実施している。公開講座では地域連携部門を中心に企画・実施・改善策等が検討されている。出張授業・市民講座では連携協力推進会議を中心に企画・実施・改善策等が検討されている。

以上のとおり、正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施され、活動成果・満足度向上のための改善システムが機能している状況を総合的に判断すると、選択的基準「正規過程の学生以外に対する教育サービスの状況」を満たしている。

（４）目的の達成状況の判断

平成22年度は公開講座を15以上テーマ企画し、実施している。また、受講生の参加状況、アンケートによる満足度調査の状況より、地域住民の教養を高め、地域社会の文化の向上に資する目的を達成している。阿南市との連携協力では市内の小・中学校への出張講義や一般市民への教養講座を企画・実施（平成22年度は10 講座）しており、地域の振興・発展及び教育研究の充実に資する目的を達成している。

以上のことより、本校における正規課程の学生以外に対する教育サービスの目的の達成状況は良好である。